



からしだね

2021年8・9月号
(573号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

ノノイ・プラザ神父の巻頭言 「平和」
(原著英文も)

8月・9月のガラスケースのみことば

8月・9月のみことばについての解説

福音宣教委員会からのお知らせとお願い

平和旬間大阪教区の統一テーマ

『誰も置き去りにしない世界へ』

お問い合わせを！ 教会に来られない方へ
新着図書が入りました

みんなの談話室

高瀬賞受賞作品「癒やす時」(抄)

8月・9月 黙想会のお知らせ

8月・9月の行事予定

今月の表紙絵について

夏に入りました。暑さがいつそう酷くなってきました。おそらくこの暑さのおかげで、いちばん夏を嫌がる人が多いのでしょうか。もっともこれは、どの年齢層を言うのかによりけりです。若者たちは砂浜でも緑の競技場でも山でも、きっと太陽のもとで遊ぶのが好きでしょう。

とはいえ今年の夏が普段より暑くても普通どおりでも、カトリック教会にはいつもなすべきことがあって、それを教会は祝います。この季節が過ぎゆくときも、精神的滋養をみなさんにお伝えし、さらなる洞察力を身に着けるのです。

わたしのごく限られた知識ですが、いまや聖人となられたヨハネパウロ二世が来日された年以降、日本のカトリック教会がずっと守ってきた実り多い行事のことを言っています。1981年2月23～26日は年配の日本のカトリックなら忘れられない日々です、というのも教皇様が司牧のためにお越しになったのがこの時だったからです。戦争中、長崎広島をおそった悪を背景に教皇様は平和のメッセージを宣言なさいました。

そこで来日の翌年、日本の司教様方は（ヨハネパウロ二世の遺産を守りたいと考えて）10日間におよぶ平和旬間を毎年8月15日、聖母マリアが天にあげられたまさにその日、聖母被昇天の祭日にクライマックスを迎える行事としたのです。

いまや平和旬間はほぼ40年もつづく平和への努力となりましたが、その努力はいまも今日的意義をもっています。いまの世界を眺めれば、戦争と暴力、無秩序と果てそうもない苦痛をもたらす状況はすぐ見つかるから。もちろん、こうしたものがすべてなくなれば、それで平和なのかといえはそうじゃなく、真の深い平和とはそれ以上のものです。

カトリック教会の教義問答は明快に語ります—「平和とは戦争がないことではなく、敵対者のあいだに力の均衡が維持されるだけでもない。人々の財産保護、自由な意思疎通、個人や民族の尊厳にたいする敬意、友愛関係の根気強い実施なくして地上に平和を達成することはできないのである。平和とは「平穏な秩序」である。平和とは正義のなせる技であり愛の及ぼす効果である。」カトリック教会カテキズム 2304

全面的平和への作業終了には、はるかほど遠いのです。生きている間に達成されるだろう、などとわたしたちは幻影を抱いてはいません。だからといって地上に神の平和がもたらされるまで無為は何もせず待っていればいい、ということにもならない。わたしたちに平和がつづく日々、じっさい生きている間もずっと、平和を祈り、平和について考え、平和について語り、なにより平和のために行動し続けましょう。

平和の女王であるマリア様、私たちのために御とりなしてください、平和への私たちのつつましく限りある努力が立派な結果をもたらすよう、いっしょに遠い道のりを歩んでください。

みなさまに素晴らしい安全な夏が来ますように！

The leading article

Peace

Fr Nonoy Plaza

We're now in the middle of summer. And the heat is becoming more intense. That is why for many, summer is probably the least loved season. Well, I think it really depends on which age bracket you're referring to. For certainly, the young kids would like to have fun under the sun, be it on the beaches or on the green fields and mountains.

But whether this year's summer season be unusually hot or just normally warm, the Catholic Church always finds something meaningful to do and celebrate. The church would not just let this season pass without imparting spiritual nourishment or gaining more insights in the process.

In my very limited knowledge about it, I'm particularly referring to the rich observance the church here in Japan has been doing since the year after the now sainted Pope John Paul II made his visit here. For the older Catholics here, the days of February 23-26, 1981 were memorable days because those were the days when Pope John Paul II paid a pastoral visit here. Against the backdrop of the evils that have befallen over Nagasaki and Hiroshima during the second world War, the Pope was proclaiming a message of peace.

Thus the following year, (1982) the Catholic bishops of Japan (wanting to preserve the legacy of John Paul II's visit) made a 10-peace-days a yearly observance which culminates on the very day our blessed virgin Marry assumes into heaven, the feast of the Assumption, that is August the 15th.

Although this peace endeavor has been going on for almost 40 years now, still its relevance remains high. For looking at our world today, I think it's not that too difficult to find situations of war and violence, chaos and seemingly unending suffering. Of course, deep peace is much more than the absence of all these.

As the Catechism of the Catholic Church clearly says, "... Peace is not merely the absence of war, and it is not limited to maintaining a balance of powers between adversaries. Peace cannot be attained on earth without safeguarding the goods of persons, free communication among men, respect for the dignity of persons and peoples, and the assiduous practice of fraternity. Peace is "the tranquillity of order." Peace is the work of justice and the effect of charity. CCC# 2304

The work for total peace is obviously far from over. In fact, we hold no illusions that this will be achieved in our own lifetimes. But this doesn't mean that we will just sit idly and wait until God brings down peace in earth. No, in these days of peace and in fact throughout our whole lifetime, we continue to pray for peace, think about peace, talk about peace, and most importantly, act for peace.

May holy Mary, who is the queen of peace, intercede for us and journey with us so that all our own humble and finite endeavors for peace may bring notable results. Amen.

HAVE A WONDERFUL AND SAFE SUMMER BREAK TO ALL. GOD BLESS!

8月・9月のガラスケースのみことば

誰かに喜びを与えることにより、あなたは多くのものを得ることができるのです

トマス・モア

(福音宣教委員会撰)

8月・9月のみことばについての解説

ノノイ・プラザ神父

この言葉は、カトリック教会で人気のある聖人の一人である聖トマス・モアが言った言葉です。わずか57年という比較的短い生涯でしたが、トマス・モアは確かに人生で多くのことを成し遂げました。

弁護士、裁判官、哲学者、作家、政治家、或いは著名な人文主義者でもあったと言われていました。トマス・モアは、当時イギリス政府で最高位であると言われていたイギリスの大法官に任命され、ヘンリー8世に仕えました。

しかし、これらすべての権力の「罨」は、トマス・モアの神への深い信仰を損なうものではなかったようです。おそらく、冒頭の言葉は、世俗的な見返りを求めることなく、神に仕えたいというトマス・モアの強い思いから出たのでしょう。この言葉は、まさにイエスご自身が言われたことと本質は同じです。聖書マタイ6章33節に「まず、父の国と神のみ旨を行なう生活を求めなさい。そうすれば、これらのものも皆、加えて、あなたがたに与えられるであろう」と記されています。

神のみ旨を行なう過程で、見返りを求めることなく自分自身を無にすることによって、私たちが出会い、暮らしや仕事をともにする人々を幸せにできることに気づくでしょう。そして、古い自分の殻を脱ぎ捨て、他に尽くすことにより自分を本当の意味で成長させ、心を豊かにすることができるのです。フランシスコ会の創設者であるアッシジの聖フランシスコも言うように、与えられるよりも与えることの方が喜びは大きいのです。

トマス・モアはカトリック教会に対するヘンリー8世の邪悪な計画に反対し、人生を終えることになりました。トマス・モアは英国国教会の最高責任者に聖職者ではない王が就任することを拒否し、そのことが理由で処刑されたのでした。

処刑の際、トマス・モアは次のように言ったと伝えられています。「私は王の善良な僕として尽くしてきた。しかし、王の望みと神の教えが相容れない時は神の教えを優先する」と。トマス・モアは神にすべてを捧げました。そしてその恵みとして、神は天国での終わりのない喜びでトマス・モアに報いてくださったのです。

福音宣教委員会からのお知らせとお願い



今月よりカトリック池田教会のLINEを始めることになりました。

月に一回程度、今月の御言葉の解説と朗読、『からしだね』WEB版やクリスマスなど、教会行事の情報をお届けします。

是非、教会とLINEのお友達になっていただき、福音宣教の観点からご家族やお友達にもご紹介いただければと思います。

お問い合わせを！ 教会に来られない方へ

コロナ禍によって健康のこと、生活のことで困っている信者やその家族に隣人としてできることはありますでしょうか。とりあえず、近頃教会に来られていない方に連絡してみてもはどうでしょうか。

評議会議長

(下のポスターは聖堂の入り口に貼付中)



2021年平和旬間大阪教区の統一テーマ

『誰も置き去りにしない世界へ』

8月6日から8月15日までの10日間は日本カトリック平和旬間と定められており、毎年色々な企画を考えてまいりました。今年の大阪教区のテーマは『誰も置き去りにしない世界へ』です。

私たちはみんな神様に愛されている子どもです。神の家族として、誰一人ないがしろにされてはいけません。皆様もそれぞれこのテーマ『誰も置き去りにしない世界へ』にあった行動をされていると思います。

例えば、貧困をなくすために食べ残しをしない、いじめや差別をしない、させないように考える、環境破壊を食い止める為にリサイクルに協力する、など、私達が生活の

中で身近に考えられることは沢山あると思います。誰も置き去りにしないために、私たちに出来ることは何か？大人から子どもまでもが考える機会になればと思っています。

8月14日、15日の平和祈願ミサの時に少しお時間を頂いて、誰も置き去りにしない世界のために出来る行動をカードに書いて頂きます。当日参加出来ない方にもカードを聖堂の後に置いてありますので書いて回収ポストに入れてくださると嬉しいです。よろしくお願ひします。

社会活動委員会

新着図書が入りました 研修委員会

この度、池田教会で「聖書協会共同訳聖書」という新しい聖書を購入致しました。この「聖書協会共同訳聖書」は「新共同訳聖書」以来31年ぶりに聖書協会から新翻訳として2018年に出版されました。

「聖書協会共同訳聖書」は「新共同訳」に続き、カトリック・プロテスタント諸派の協力による翻訳で、「礼拝での朗読にふさわしい」ものとするを方針に捉え、意訳か直訳にこだわるのではなく、礼拝にふさわしい「格調高く美しい日本語」とすることを大切に作られました。「聖書協会共同訳聖書」は「新共同訳」の改訂ではなく、原文からの新たな翻訳です。

二つの聖書の訳文の違いについて二つの箇所を挙げてみます。

(聖書協会共同訳) 『苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生むことを知っているからです。』, (新共同訳) 『わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。』

(ローマ 5章・3後半～4節)。

(聖書協会共同訳) 『信仰とは、望んでいる事柄の実質であって、見えないものを確証する事です。』, (新共同訳) 『信仰とは望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。』

(ヘブライ人への手紙 11章1節)

発行元の日本聖書協会は、明治元訳(1887年)、大正訳(1917年)、口語訳(1955年)、新共同訳(1987年)と約30年おきに聖書を改訂、あるいは新たに翻訳してきました。30年経つと、言語が変化すること、聖書学、写本研究、考古学が発展し、新たな知見が加わる事がその理由です。この「聖書協会共同訳聖書」もそのような変化に対応して発行されました。

「聖書協会共同訳聖書」は、カール記念館二階会議室の本棚に置きました。是非手に取って新しい聖書の御言葉に触れて、より一層深く聖書を理解される事の手助けとなれば幸いです。

みんなの談話室

高瀬賞受賞作品「癒やす時」(抄)

パウロ

このたび、短歌結社「短歌人」の新人賞にあたる第二十回高瀬賞を「癒やす時」という作品で受賞いたしました。人生には定められた時があるという作品で受賞いたしました。人生をモチーフに、人生のある時点での挫折が別の時点での幸せにつながる可能性をもつという希望を詠んだものです。私にとつてキリスト教に出会ったことと短歌を始めたことは全く関連のない出来事だったのですが、こうして詩歌と信仰を融合させた作品を生み出すことができました。このこともまた天によって定められていたことなのかも知れません。

ここでは受賞作品から数首をご紹介します。全体をご覧になりたい方は短歌人ホームページ(<https://bit.ly/3dJbAWK> PC版サイト)からご確認ください。

作品抄

わが足の炬燵のなかにふれたるは妻の足なり 寝てゐてもわかる

サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼のごとく乾ける土手をあゆめり

もし夢が叶つてゐたら あなたにもあなたの子にも出逢へなかつた

「抱擁の時、抱擁を遠ざける時」 この冬を前者と思ふ

公園の池のこほりのぶあつさをたしかめにゆく冬の家族は

8月・9月の黙想会のお知らせ 宝塚黙想の家

■日帰り黙想会 10:00~15:30

8月は休み

9月14日(火)

指導: 稲葉 善章神父

9月23日(木)

指導: 染野 治雄神父

9月24日(金)

指導: 山内 十束神父



■一泊黙想会

8月は休み

9月21日(火) 17:00~ 22日(水) 15:30

指導: 稲葉 善章神父

9月25日(土) 17:00~ 26日(日) 15:30

指導: 山内 十束神父

■祈りを深めるための聖書の基本

8月・9月第1・3水曜日

10:00 ~ 12:00

指導: 山内 十束神父

■カトリック教会のカテキズム

8月は休み

9月第2・4水曜日 10:00 ~ 12:00

指導: 染野 治雄神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111

8月・9月の行事予定

行事予定はカトリック暦や昨年度末に評議会に報告された常設委員会の活動予定、聖書勉強会などの開催予定から作成しました。

新型コロナウイルス感染状況等により変更される場合がありますのでご注意ください。

8/1(日) 年間第18主日
カンボジア教会復興献金、
典礼委員会

8/5(木) 日本カトリック平和旬間(~15日)

8/6(金) 主の変容(カトリック祭日)
聖体賛美式

8/7(土) アルファ・コース 10:00~

8/8(日) 年間第19主日
御受難会への献金
典礼聖歌奉仕会

8/14(土) ドレミの会 キャンプ(中止)

8/15(日) 年間第20主日
聖母の被昇天(カトリック祭日)
食物の奉獻

8/20(金) 青年と子どもの練成会(中止)

8/21(土) アルファ・コース同窓会 10:00~

8/22(日) 年間第21主日

8/29(日) 年間第22主日

8/31(火) 幼稚園 始業式

9/3(金) 聖体賛美式

9/4(土) アルファ・コース 10:00~

9/5(日) 年間第23主日
被造物を大切に作る世界祈願日
御受難会への献金

バザー委員会(中止)、典礼委員会
地区委員会、日曜学校始業式

9/11(土) ドレミの会(再開は未決定)

9/12(日) 年間第24主日

評議会
典礼聖歌奉仕会

9/14(火) 十字架称賛(カトリック祭日)

9/16(木) 聖書100週間 10:30~(注)

9/17(金) 福音書を学ぶ会 14:00~16:00(注)

9/18(土) アルファ・コース 10:00~

中高生のお泊り会

9/19(日) 年間第25主日

高齢者の祝福、食物の奉獻
社会活動委員会

9/21(火) 病者・障がい者とともに歩むミサ
(カテドラル)

9/22(水) 釜ヶ崎訪問

9/23(木) 聖書100週間 10:30~(注)

9/24(金) 福音書を学ぶ会 14:00~16:00(注)

9/25(土) 広報委員会(編集)、子どものお泊り会

9/26(日) 年間第26主日

世界難民移動者の日(献金)
バザー委員会(中止)、地区委員会
広報委員会、大人の日曜学校

注: 2つの聖書の勉強会の予定が変更されることがあるので、カール記念館一階受付にある月間予定白板で確認されるか、世話人にお問い合わせください。

今月の表紙絵について

マリアが地上の生活を終えて、その肉体と靈魂が天に挙げられる様子を美しく描いています。幼子の天使が聖母マリアを取り巻き、その体を押し上げています。屍衣を脱ぎ捨てた聖母マリアは雲に導かれながら、ひたむきに天を見つめています。聖母マリアの信仰の深さ、いちずな思いが表れた作品です。

イエスの愛する弟子ヨハネは、十字架につけられたイエスから、「見なさい。あなたの母です」と告げられ、聖母マリアを自分の家に引き取りました。（ヨハネ19：27）聖ヨハネはイエスの死後数年して、布教のためにトルコにあるエフェソスへ行きます。そのとき聖母マリアを伴ったと言われています。ローマ教皇庁は1951年に聖母マリアが亡くなるまでエフェソス近郊で過ごしたことを認め、エフェソスを巡礼地としました。

聖母被昇天の信仰は古くからありましたが、カトリックの教義となったのは、エフェソスが巡礼地となった一年前の1950年、ピオ12世の宣言によります。表紙の作品は、ニコラス・プサン（1594～1665）がキャンバスに油彩で1630年から1632年の間に描いたものです。ワシントンにある国立美術館、ナショナル・ギャラリー・オブ・アーツに収蔵されています。

編集後記

6月からワクチン接種が部分的にせよ行われ、緊急事態宣言が終息し、公開ミサと定例評議会が開かれ、多くの常設委員会から投稿や報告、お知らせ、が『からしだね』の編集会議に届き、教会活動が賑やかになって来たのを肌で感じられるようになってきた。

さらに、「みんなの談話室」に度々短歌を投稿されていた方から短歌雑誌の新人賞の受賞作の一部を投稿していただいた。その前書きには「人生のある時点での挫折が別の時点での幸せにつながる可能性をもつという希望を詠んだものです」という率直な一節がある。一年半に及ぶコロナ禍を過ごす間に私の思いも変遷し、一部は凝固して、遺った。それは弱い自分のありのままを認めて歩むならば、他の人々と交わり合えるのではないかという希望であった。

インマヌエル